

願生極樂

願生極樂

禅林大僧心寶七



極樂ごくらくに生しょうぜんとして願ねがう

地獄じごくは地底深くにあるといわれますが、私わたしたちの身み近みぢかにそれを知ることが出来ます。

貧困・失業・借金地獄・大麻・アル中・薬物地獄・誹謗・中傷・泥沼の人間関係、詐欺を「仕事だ」と言い張る自己欺瞞、病気に苦しむ人に「この薬を飲めば治る」といつて近寄る妄信者、近所のゴミの捨て方に沸き上がった修羅場等々、—— 枚挙に暇ありません。

それゆえこの世は「地獄」ではありませんが、地獄の様相を呈する世界です。

一方、極樂は地獄の様相など一片もない所です。だから私たちは極樂に生まれることを願うのです。否、単に願うだけではありません。極樂を願う心は、この身、この世を省みる心なのです。ここが肝要です。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、豊明市在住吉田真二郎様に進呈します。ご希望の方は八方主で住所氏名・希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し名に進呈。

生しょう死じ事じ大だい



毒箭の喩——生死事大

マールンキアブッタという釈尊の弟子がありました。彼が坐禅をしていた時のこと、いつたい世間は恒常なのだろうか、世界は有限なのだろうか、死ねば魂はどうなるのだろうか——等の疑問が湧き起りました。そしてこの疑問が解決されなければ還俗しようと考え、釈尊にその答えを求めました。

すると釈尊は、次のようにお答えになりました。——ここに毒箭で撃たれた者があるとしよう。その時その者が、箭を抜き治療しようとする人に、「誰が撃つたのか、どのような弓で撃つたのか、どのような箭か、どんな鏃か、誰が作ったのか——が分からない限り、箭を抜いてはならない」と言つたとしよう。するとどうなるであろうか。そのようなことをしているうちに毒が回り、その者の命は終わってしまうであろう。其方の疑問はまさにこれと同じである。

私なぜその様なことを教えなかつたかといえは、それらは苦からの解脱、すなわち煩惱の消滅・こころの安らぎ・正しい覚りに何ら役立たないからである。だから教えなかつたのだ。ここを心得ておくように——と。これを聞いてマールンキアブッタが佛道に励んだことはいうまでもありません。

何よりも大切な事を考えずに、役に立たないことを考えているうちに命が終わってしまう、——十分心した言葉です。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、京都市在住声田弘様に進呈します。ご希望の方は八ガ主で住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

持じ戒かい堅けん固ご



松樹千年の翠しょうじゅせんねんざいり

松樹千年の翠  
松は千年もずつと変わることなく  
緑を保ち続けるといふ

だが世人は  
艶な儂い夢ばかりに酔い  
変わることはない 隠れた真実に  
気付くものは少ない

実のところ松は  
変わっていないように  
春には柔らかい葉を芽吹き  
目立たない変化を繰り返し 風雪に耐えて  
千年の翠を保っているのだ

人間たかが百年  
つねに若々しい葉を芽吹いていこうとする  
生気を失ってはならない

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長久我儼昭猥下のご染筆です。前々号の色紙は、名古屋市在住山村喜美様に進呈します。  
ご希望の方は八ガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

無む常じょう  
迅じん速そく



看みよ看みよ 臘ろう月げつ尽つく

(あつという間に一生は終わるといふ諭ごんご)

むかし中国で

坊さんが山中を歩いていると

樹の上に仙人がいる

「何をしているか？」

「見てのとおり修行している」

「修行して何んになる？」

「不老長寿二百年！」

「では二百年目はどうなる？」

仙人はぐうの音も出ず

坊さんの弟子になったという

どんなに長生きしようが

人間いつかは死ぬ

南無阿弥陀佛

浄土極楽往生は

無量寿への旅立ち

身支度を調べて

準備しておかねばならぬ

※臘月とは十二月のこと

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猥下のご染筆です。前々号の色紙は、刈谷市在住早川勝美様に進呈します。ご希望の方は八方まで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

人 にん  
命 みょう  
甘 かん  
美 み



この世界は美しく、

人の命もまた甘美である

【般若槃経】

お釈迦さまは覚りを開いて後、何度か故郷を訪れておられる。その最後の旅において病に臥され、一たびは快復されたが、生涯を閉じることを覚悟された。

その時お釈迦さまは、従者の阿難を伴い小高い丘に登られた。そして街を見下ろしながら、

この世界は美しく、

人の命もまた甘美である

とおっしゃった。

「この世の一切は苦しみである」、そう覚られたお釈迦さまが最後にこのようおっしゃった。

苦しみに満ちているが、

それでもこの世界は美しい

この世界とそこで生きる人々への讃歎のことばであろうか。

What a Wonderful World !

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猗下のご染筆です。前々号の色紙は、京都市在住提一晃様に進呈します。ご希望の方は八方まで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し二名に進呈。

無<sup>む</sup>諸<sup>しよ</sup>苦<sup>く</sup>痛<sup>つう</sup>

無<sup>む</sup>諸<sup>しよ</sup>苦<sup>く</sup>痛<sup>つう</sup>

永観堂主實七



命終<sup>めいしゆう</sup>の時に望<sup>のぞ</sup>んで

身心<sup>しんしん</sup>に諸<sup>しよ</sup>々の苦痛<sup>くつう</sup>なく

善導<sup>ぜんどう</sup>大師<sup>だいし</sup>「發願<sup>はつがん</sup>文<sup>ぶん</sup>」

病状<sup>びやうじやう</sup>が末期<sup>まき</sup>となり、我が家<sup>いへ</sup>で最期<sup>さいご</sup>を迎<sup>むか</sup>えることを望<sup>のぞ</sup>まれたご主人<sup>しゆじん</sup>が、

自分<sup>じぶん</sup>も入<sup>い</sup>ることになる仏壇<sup>ぶつだん</sup>に向<sup>むか</sup>かって  
住職<sup>ぢゆうしやく</sup>さんが読<sup>よ</sup>むお経<sup>おきやう</sup>を聞<sup>き</sup>きたい

と望<sup>のぞ</sup>まりました。

依頼<sup>いらい</sup>を受けた住職<sup>ぢゆうしやく</sup>は、

發願<sup>はつがん</sup>文<sup>ぶん</sup>のように、この方<sup>なた</sup>の御臨終<sup>ごりんしゆう</sup>に際<sup>さい</sup>  
し、身<sup>み</sup>にも心<sup>こころ</sup>にももろもろの苦痛<sup>くつう</sup>があ  
りませんように

と念<sup>ねん</sup>じながら読<sup>よ</sup>経<sup>きやう</sup>しました。

仏間<sup>ぶつま</sup>の隣<sup>となり</sup>の寢室<sup>しんしつ</sup>では、ご主人<sup>しゆじん</sup>が静<sup>しず</sup>かにお  
念<sup>ねん</sup>仏<sup>ぶつ</sup>を称<sup>なづ</sup>えておられました。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、山陽小野田市在住中村孝子様に進呈します。  
ご希望の方は八方圭で住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

かい  
こう  
くん  
じゅう  
戒香薰習



### 戒香薰習かいこうくんじゅう

登山に出掛けると、山中で霧やモヤに出会うことがあります。雨ではないのでそのままにしておくと、気がついた時には着衣がしっとり濡れています。霧は小さな水滴ですから、その中に長時間いれば濡れて当然です。

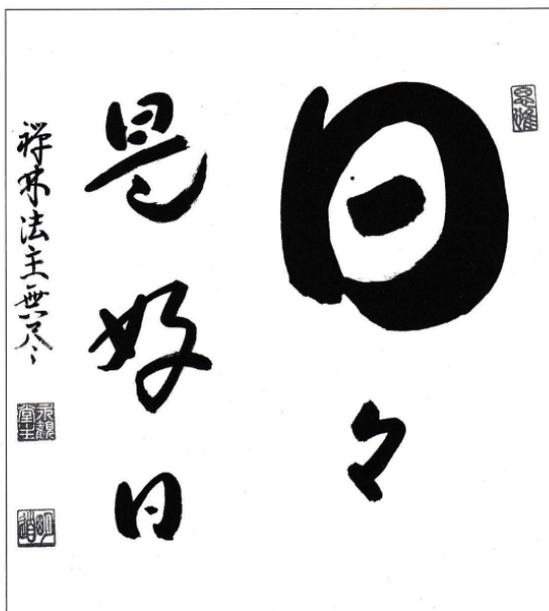
それと同じように、私たちも手本となるような善き人に接し、善き環境に身を置いてみると、あなたかも霧で着衣がしっとり濡れるように、自然と善き振る舞いが身につきます。これを「戒香薰習」といいます。人は、環境によって善にも悪にもなりません。日頃から少しずつ善き環境を調えるよう、心がけたいものです。

※ 薰習とは、善き香りが他に善き影響を与えること

総本山 永観堂 禪林寺

右の色紙は管長久我儼昭猥下のご染筆です。前々号の色紙は、姫路市在住水野美紀様に進呈します。ご希望の方は八ガまで住所・氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

### 日々是好日



「日々是好日」  
にちにちこれこうにち

毎日毎日がすばらしい。

中国唐宋の禅僧、雲門文偃うんもんぶんえんの言葉

出掛けに雨が降っていいものなら  
文句の一つも言いたくなる

しかし

自分に意地悪をするために

雨は降っているわけではない

雨を嫌って

家の中に閉じこもっていても

雨の本質は分らない

時に土砂降りの中に飛び込み

時に雨音に聴き耳をたて

外の景色を眺めていると

今まで気づかなかった

雨の本当の良さが見えてくる

自分勝手な物差しで

善し悪しを判断しなければ

毎日毎日が

すばらしい日となる

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我巖昭猥下のご染筆です。前々号の色紙は、石川県金沢市在住島村博様に進呈します。  
ご希望の方は八ガ玉で住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

微妙香潔



「异花香满衣」 于良史 『春山夜月』

花を弄弄すれば香衣に満つ。

知らず知らずのうちに

われわれは皆

「におい」を身に付けている

花と戯戯むれていると

衣服に花の香りが

移り香として

薫るがごとくに

政治家・学者・医者

あるいは職人・芸人等々

それぞれがそれぞれに

「におい」を放っている

今ここにいる自分

芳かほわしく匂におっているか

もしや迂闊うがわにも

臭におってはいはしまいか

はてどちらであるうか

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我鑑昭猥下のご染筆です。前々号の色紙は、一宮市在住堀口信義様に進呈します。ご希望の方は八ガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

欣求浄土

欣求  
浄土

永観九ノ世法主實七



願往生

「どうして私には、こういう災難ばかり起こるんだらうか」「あの人はいくらやましいな、高級車ばかり運転して」、ついつい妄念を起こしがちになる。

西山上人のお言葉に、「妄念まげん発りて制伏せいふくしがたき時は、妄境を便りとして、責めて厭えん欣きんを發はすべし」(五段鈔)とある。

自分自身の中に、妄念が起こつてしまい、それを制せいしたいときでも、それも浄土往生のきっかけにしていこうと。

災難があることは、娑婆を厭えんえということなのだろう、うらやましいと思うのは、本当の大切なことに気づいていないことを知ることなのだろうと。

すべてが、浄土を願う心につながるよう  
にしていきたい。

絵本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我巖昭祝下のご染筆です。前々号の色紙は、北海道深川市在住葛原琢磨様に進呈します。  
ご希望の方は八ガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

専せん  
修じゅ  
念ねん  
仏ぶつ



## 専修念佛

法然上人が教えを説かれる前から、「念仏で救われる」ことを人々は知っていた。源信僧都「往生要集」には、念仏の尊さがたくさん書かれている。法然上人以前は、念仏でも救われるし、修行でも悟ることができるとしていた。

では、法然上人の念仏と何が違っていたのか。それは、念仏でしか救われないと明らかにされたことだ。

法然上人は、釈尊がこの世に生誕され説法された目的は、念仏のみが道であることを示すためと教えている。阿弥陀仏の本願が最勝であり、誰もが頼れる唯一の道なのである。

法然上人のみ教えは、それゆえ専修念佛という。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猥下のご染筆です。前々号の色紙は、愛知県刈谷市在住近藤杏美様に進呈します。ご希望の方は八ガまで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

## 正見



## 正見

お地藏様に造花がお供えしてあります。ある人がこれを見て、「この造花には心がこもってませんね」とおっしゃいました。

この花をお供えされた老夫婦は、月に一度遠方からお参りされます。手を合わせ、お経を唱えて帰られます。何を願っているのか訊かずにいますが、夫婦お互いの無事をお願いしているのでしょうか、なんとも良いお姿です。さて、この造花に心はこもっていないのでしょうか？

「心」は目に見えません。目に見えないのに「ある」とか「ない」を見たもので判断します。目の前にあるものに自分の心が囚われてしまいます。非難した人は造花だけを見て、ご夫婦の姿は見えておられません。

目に見えたものを正解と思ひこんでいるところから誤解は生まれます。あなたの判断は正しいですか？ 口に出してもいいですか？

絵本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、福井県福井市在住渡辺直行様に進呈します。ご希望の方は八ガ玉で住所・氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。